

# 参加体験型の実践教育による 企業・団体や個人への安全運転教育

全国7カ所にあるHondaの交通教育センターでは、安全教育の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に参加体験型の実践教育により、スキルアップと共に安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約8万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

## 企業・団体のニーズに 合わせた安全運転研修

企業・団体向けには、車両の使用状況や、事故傾向に応じたオリジナルプログラムを提供しています。

例えば、鈴鹿サーキット交通教育センターでは昨年4月から独自の運転評価システムHDSP (Honda Driving Style Proposal) を活用した運転習慣チェックプログラムを実施。今年度は4月～10月で864名が受講しました。このプログラムの特徴は個々の運転行動が可視化され、自己評価と比較することで、受講者自身が課題に気づき、行動の改善につながれることです。

また、受講者の運転走行データを蓄積・分析することで、受講者全体や同じ研修受講グループ内での個人の位置付けを把握でき、これに基づいた課題の設定や、運転行動の改善につなげる講習が可能となりました。さらに、研修前後の走行データを収集するためUSB型簡易計測器を開発し、受講者の運転行動の改善効果を検証する取り組みも、本年10月より始めました。

Hondaは引き続き、走行データをもとにした新たな教育プログラムを開発していきます。



交通教育センターレインボー埼玉での安全運転研修



HDSPによる安全運転研修



USB型簡易計測器



## Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに安全運転技術の向上と均質化を図る場と機会の提供を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。19回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所から40名、海外の10の国と地域から43名のインストラクターが参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、それぞれ3種類の競技を行うとともに、安全運転の指導力向上をめざして共通議題についてのグループディスカッションを実施しました。各国の交通状況を理解しながら、様々な意見を交換することで、各々がインストラクター活動に役立てるヒントを持ち帰りました。



普通二輪部門競技